

2. 指標設定

成果指標	指標名	地区集会所事業への参加者数	目標年度	H27	指標の設定理由			
	数値	400人			総合計画／後期基本計画において、基本施策(6-2-1)の目標としているため			
活動指標	指標	a 相談件数	b ふれあい教室・出前隣保館の参加者数	c 啓発図書閲覧・貸出件数	d 隣保館だよりの発行回数			
	数値	目標 400件	目標 880人	目標 300件	目標 12回			

3. 実績（上段・実績／下段・達成率）

成果指標名	単位	H23	H24	H25
地区集会所事業への参加者数	人	272	392	342
	%	68.0	98.0	85.5

活動指標名	単位	H23	H24	H25
a 相談件数	件	373	329	391
	%	93.3	82.3	97.8
b ふれあい教室・出前隣保館の参加者数	人	697	772	739
	%	79.2	87.7	84.0
c 啓発図書閲覧・貸出件数	件	217	209	205
	%	72.3	69.7	68.3
d 隣保館だよりの発行回数	回	12	12	12
	%	100.0	100.0	100.0

4. 課題と対応

課題
現在、隣保館を利用する市民が固定化されていることが現状である。交流拠点施設の機能を果たすため多くの市民が交流できる機会を提供する。
対応（改善点等）
豊後大野市の課題である介護予防や児童館との交流を目的とした事業を展開するため関係課と連携する。

5. 事業費・・・H23～H25（決算額）、H26（予算現額）

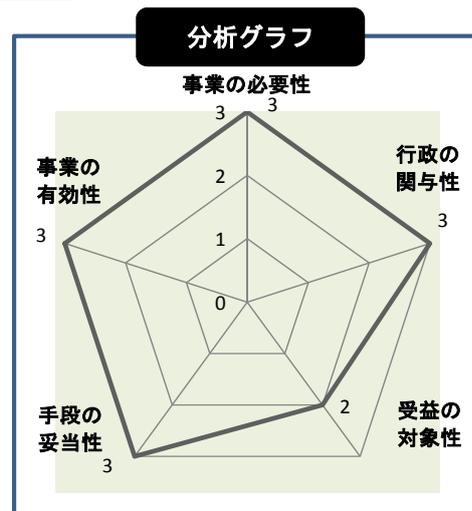
決算額（千円）		H23	H24	H25	H26
うち経常経費		8,841	8,909	9,354	10,026
財源内訳	国費				
	県費	7,557	5,968	6,409	6,588
	市債				
	その他	189	226	148	129
	一般財源	1,095	2,715	2,797	3,309
うち経常		1,095	2,715	2,797	3,309
事業費に係る人件費		8,600	8,588	8,718	8,871
事業費に係る人役		2.00	2.00	2.00	2.00

6. H27年度予算の方向性

方向性
前年並
理由
隣保館運営事業は、国・県の補助事業であり、現行制度で推移するため。

7. 担当課による分析

着眼点	分析	分析根拠
① 事業の必要性	必要性の再確認	3 隣保館を活用した市民の交流機会の創設や相談事業の充実が行政が担うべき事業であるため。
② 行政の関与性	責任領域の精査	3 市が、主体となり事業内容等を計画し、実施する必要があるため。
③ 受益の対象性	事業対象の確認	2 市内全域を対象とした事業の実施が望まれるため。
④ 手段の妥当性	活動指標の分析	3 相談事業、ふれあい教室、出前隣保館、啓発広報は適切な手段であると判断できるため。
⑤ 事業の有効性	成果指標の判断	3 目標に対する達成率も高く、有効性は高いと判断できるため。



8. 内部評価委員会評価（委員会評価）

事業の方向性	評価内容
継続	引き続き、広報活動を通じ、広く市民へ利用を促す取組みを行うこと。